



特集 「新教科書」— これからの英語教育

『MY WAY English Communication I』 の特長 — EXCEEDの「不易」をさらに強化 —

桜美林大学 森住 衛

はじめに

今回の学習指導要領改訂に際して、これまでのEXCEEDのシリーズは、新しくMY WAYのシリーズに生まれ変わりました。編集の方針は「不易流行」です。つまり、残すべき良き伝統は継承し、変えるべきは大胆に改訂するというものです。残すべきは題材です。特に、ことばに関する題材はEXCEEDの真骨頂でした。語彙と文法の指導の重点的扱いも継承します。大きく変えたのは教科書構成です。これまで本文はセクションを続けて表示する方式を採ってきましたが、今回は左に本文、右に活動という見開き構成にしました。現在の高校英語教育の現場ではこの方が指導しやすいという「声」を尊重しました。

本稿では、新版MY WAYの特長を「不易」の3つに絞って説明させていただきます。その3つとは、①興味深い題材の提供、②語彙と文法の増強、③Reading & Thinkingの充実です。「不易」としましたが、いずれも、これまでと同じではなく、さらに大きく進展させた内容にしています。

興味深い題材の提供

まず、本課でどのような題材を取り上げたかを順に概観します。

L.1 A Story about Names

〈姓+名〉か〈名+姓〉かの違い、英語圏、イタリヤ、モンゴルなどの例にみる氏名のいろいろ

L.2 Shoes for a Dream

高橋尚子さんがSmile Africa Projectを通してケニヤの子どもたちに運動靴を送っている活動

L.3 Green Roofs

CO₂の削減や暑さ対策など省エネで屋上に芝生や木々を植えている建物

L.4 Pictures of Funny Moments

アメリカ人の写真家エリオット・アーウィットの瞬間の妙味をとらえた写真

L.5 Letters in the World

古代文字、英語のアルファベット、漢字、ハングルなど世界のさまざまな文字の由来

L.6 Great Abilities of Pigeons

ピカソとモネの絵を区別したり、スクランブル画を見分けたりするハトの意外な能力

L.7 The Power of Words

バラク・オバマ大統領の演説の例を通して、人を動かすことばの力

L.8 A Mysterious Object from the Past

紀元前にギリシャ沖の海で難破した船から見つかった「近代的な」機器

L.9 Sesame Street

世界140ヶ国で放映されている「セサミストリート」の理念：「多様性」と「平等」

L.10 A Lecture by Maskawa Toshihide

ノーベル物理学賞を受賞した益川敏英さんの「のりしろ」（心の自由さ）のある生活

この他に、各課の最後に〈Optional Reading〉として1セクション程度の教材を用意しました。すべて本課の題材と関連している話にしました。

L.1 Family Names in the World

いろいろな国の姓の数やその特徴

L.2 Africa in our Life

日本の日常生活とアフリカの深い関係

L.3 Masdar City

環境にやさしいアラブ首長国連邦の人工都市

L.4 Ume Kayo

一瞬を捉える若き写真家・梅佳代さん

L.5 Artful Letters

書道家・国重友美さんの「英漢字」

L.6 Learning to Survive

ニジマスにも性格の違いがある！

L.7 Audrey Hepburn

オードリー・ヘップバーンの珠玉のこぼれ

L.8 What is This?

コロンビアの遺跡から出た不思議な金細工

L.9 Our Hero Doraemon

世界中で親しまれている「ドラえもん」

L.10 Reach for the Stars

宇宙飛行士・山崎直子さんの若き日の思い

この他、物語教材の〈Reading〉が1つあります。これは、‘The Girl in the Bank’という話ですが、銀行をのぞき込む二人の若者の描写からはじまり、最後が「おち」になっています。

以上がMY WAYの本課を中心とする読みもの教材ですが、これら21編の題材は300を超す素材から精選したものです。新版MY WAYの題材の特長は、話題の広がりや深さ、地域や時代の観点、老若男女の登場、内容硬軟の均衡などの多様さです。特に、知的・情的に興味を喚起する題材を心がけました。さらに、ことばに関する題材を意図的に多く取り上げました。「ことば」は、社会科や道德の題材と区別するためにも、英語教育が扱うべき話題です。この視点を明確に出しているのがMY WAYの題材の特長です。

語彙と文法の増強

言語材料のうち語彙と文法の増強をこれまで以上に打ち出しました。昔も今も、この2つがしっかりしていれば、受験の対策にもコミュニケーションの実践にも役立つからです。

まず、語彙に関してですが、ご承知のように、新学習指導要領では2つの大きな変更があります。1つは、中学で扱う語彙が900語から1,200語になったことです。したがって、これからの高校新入生は、これまでと比べると語彙力があると考えられます。しかし、高校の新学習指導要領が実施される2013年度では、このようなことはありません。中学が前年度(2012年度)から変わったばかりで、丸々3年が終わっていないからです。これにどう対処したらよいでしょうか。

もう1つは、今回の学習指導要領は、内容の扱いが「上限規定」から「下限規定」になったことです。語彙について当てはめると、これまでは高校では新語を「1,300語程度を扱う」となっていたのが、これからは「1,800語程度以上扱うこと」になります。つまり、語彙はこれまでよりも増強せよということですが、これは難題です。中学では、「週3」から「週4」になりました。しかし、高校では単位数が増える保証はありません。

そこで、せめて教科書での工夫が必要になります。現行のEXCEEDでは、〈Words〉というコラムを設けて、語彙増強を図ってきました。新版MY WAYではこのコラムを〈Vocabulary Building〉として残し、内容も充実させました。さらに、各課末に新しい〈Words〉を設け、ゲーム的な要素も入れた新規の活動を大幅に導入しています。

文法もこれまでのEXCEED以上に増強しました。最初の〈Starter〉で中学の基本的なことを押さえます。次に毎セクションの〈Grammar〉、そして、2課ごとに〈文法のまとめ〉、最後は付録の〈文法一覧〉です。取り上げ方の特徴は、新規の認知的な理解を目指していることです。たとえば、〈Starter〉では品詞の呼称まで説明しています。

人やものの名前を表す名詞

名詞の代わりをする名詞

人やものの動作・状態を表す動詞

人やものの形や容姿などを説明する詞

動詞・形容詞・副詞に副えて説明する詞

名詞の前に置く詞

文と文、語と語を接続する詞

発話の間に投げ入れて感嘆などを表す詞

自分だけでできることを示す動詞

他の人・ものを必要とする動詞

ここまで丁寧に文法を扱っている教科書は希有だと思います。新学習指導要領では、基礎的なことの確認、自学自習できるような工夫を要求していますが、MY WAYはこれに応えています。

また、to-不定詞の説明に前置詞のtoから導入する、現在完了形のWe have walked for three hours. は文脈によって完了にも継続にも経験になるなど、斬新的で本質に迫る説明を試みています。

Reading & Thinking の充実

今回の学習指導要領の改訂で、科目名が変わりました。本誌で取り上げている「コミュニケーション英語Ⅰ」は、大雑把な見方をしますと、現行の「英語Ⅰ」にあたるものとみてよいでしょう。この科目は、4技能の扱うことになっていますが、これまでのEXCEEDも新版のMY WAYも、その中心をReading & Thinkingに置いています。その理由は3つあります。第1点はTEFLではReadingは他の技能の基礎になること、第2点は日本の英語教育環境ではReadingが最も効率がよいこと、第3点はThinkingを促すにはReading が最適であることです。補足しますと、第1点はTESLやTENL(母語としての英語教育)と混同してはいけなからです。第2点は現在のクラスサイズ・授業時数・入試問題などの対応を考えるからです。第3点はThinkingを触発させるのは主として叙述文を扱うReadingだからです。

このReading中心の理念は、各セクション、各課のあとの言語活動に表れています。まず、各セクションの後では、内容理解を促す英語のQ&Aの他に、〈Read Again〉で本課本文の内容を確認しています。また、課の最後には、〈Comprehension〉として、課全体の本文に関するTrue or Falseや穴埋めの問題、さらに、その課で印象に残った段落を自分で選んで音読する活動も入れています。

この最後の活動は、自らthinkしないと答えられません。つまり、自律的な活動を促す工夫を取り入れています。また、音読を練習に入れているのは、ReadingにはReading ComprehensionとReading Aloudがあることを生徒に喚起するためです。音読という基本を忘れないでほしいという私たちの願いでもあります。

さらに、いわば「本格的」なThinkingの活動も取り上げました。〈Comprehension〉の最後にある「考えてみよう」です。たとえば、「世界の文字」を扱った第5課では、「今後、世界で新たなlettersが誕生する可能性はあるでしょうか。本文の内容にそって〈ある〉理由と〈ない〉理由の両方について考えてみましょう」としています。これはPISA型読解力の理念を応用したものです。このようなThinking Practiceを取り上げるのは、英語の教科書では今回が本邦初でしょう。

Readingの活動の極めて基本的な技術や対処法も扱っています。たとえば、〈Reading Skill〉です。新版MY WAYでは現行のEXCEEDよりもさらに「丁寧な」アプローチを試みています。たとえば、第1課と第3課では以下のような「スキル」を取り上げました。

[Reading Skill ― 動詞と名詞]

第2段落7行目を読みながら、動詞を□で囲み、名詞に下線をつけましょう。

例：Do you say your given name first?

[Reading Skill ― 主語と述語動詞]

第2段落5行目を読みながら、各文の主語を□で囲み、述部に下線をつけましょう。

例：Today the number of such buildings is increasing gradually.

この〈Reading Skill〉では、第9,10課でパラグラフフリーディングも取り上げられています。でも、最初は、上のような確認から始めなければいけないのです。いわゆるslower learners はどれが名詞だか動詞だかわからないからです。これまでの教科書ではこの種の手当を行っていなかったのです。

おわりに

以上、新版MY WAYの特長を、「興味深い題材」、「語彙と文法」、「Reading & Thinking」の3点から説明してきました。この3点は、各学校の環境や状況に応じて差はありますが、学校における英語教育として「すべての」高校生に保証したいと考えています。

なお、今回は紙幅の都合で取り上げなかったコラムなどがいくつかあります。たとえば、2課ごとに配置した〈Let’s Try〉の[Dialog]の会話文や練習問題の例文の題材です。また、フォーニクスや発音、かぶせ音素を取り上げた〈Sounds〉です。さらに、〈Let’s Try〉の[Starter]や[Dialog]で扱っているListening、課末の〈Self Expression〉で取り上げているWritingやSpeakingなどです。これらについては省略しましたが、見本本がみなさまのお手元に届いたときに、上記の3点と合わせて、ご検討いただければと願っています。